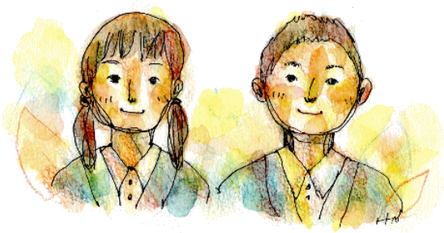
ダイジェスト版　令和６年度「中学生の保護者の家庭教育に関する調査」のまとめ～２２年間の推移をふまえて～

子育てや家庭教育について みんなで考えていきましょう



福岡県教育委員会では、令和６年度に「中学生の保護者の家庭教育に関する調査」を実施しました。

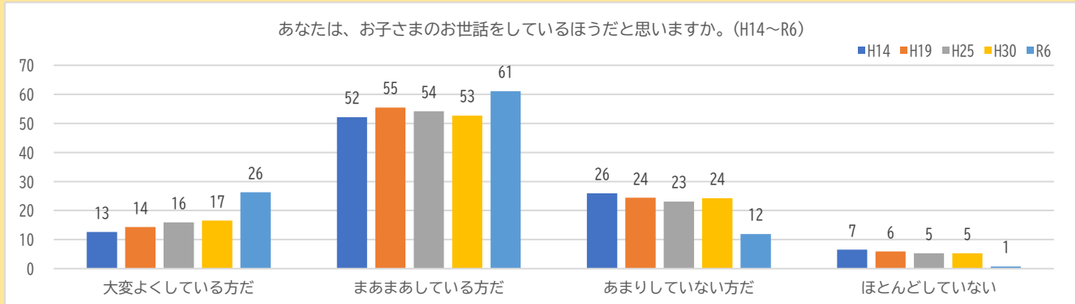
この調査は昭和５７年度から中学生の保護者（平成３０年度までは中学生含む）にご協力いただき、平成５年度、平成１０年度、平成１４年度、平成１９年度、平成２５年度、平成３０年度に実施し、今回で８回目になります。

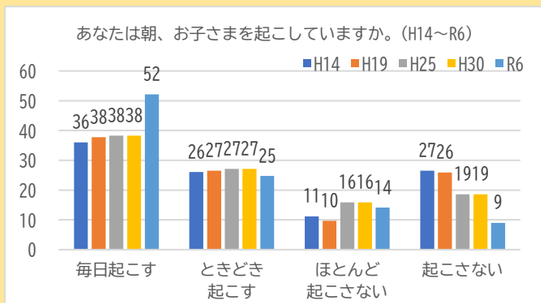
今回の調査や近年５回調査分、２２年間の推移をもとに、現在の保護者の家庭教育の実態や思いをまとめました。

これからの子育てや家庭教育の在り方を探るヒントとして活用していただければ幸いです。

対　象　者：県下の中学生の保護者
有効回答数：男性保護者　　１，１８１名
　　女性保護者　１１，３５２名
　　合計　１２，５３３名

生活習慣のリズムをつくりましょう！



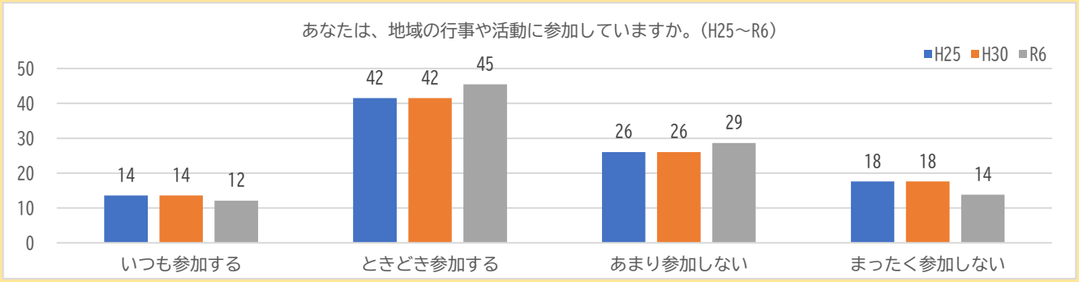


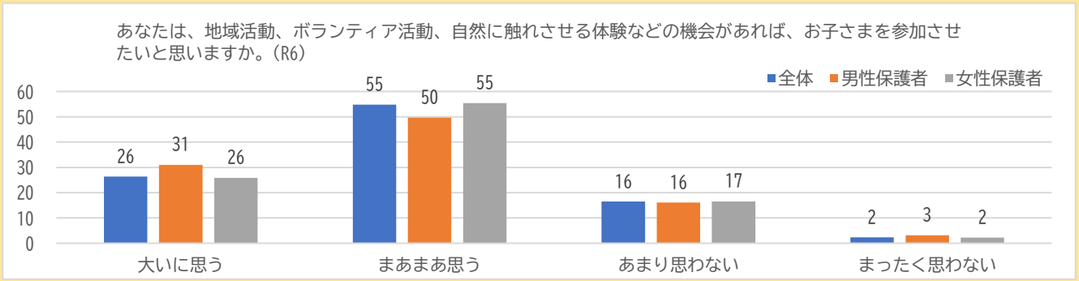
「世話」について、保護者がお子さまの世話をしているという意識は強まっています。平成 14 年度から令和６年度にかけて、「大変良くしている方だ」は顕著にその結果が現れています。

また、「起床」を例に見てみると、平成 14 年度調査と比べ、「毎日起こす」は 16 ポイント増加し、「起こさない」は 18 ポイント減少しています。

◇　朝は１日が始まる大切な時間です。自立を促し、規則正しい生活習慣や学習習慣を身につけさせましょう。

中学生も大人も多様な経験を積みましょう！





「地域の行事等への参加」について、保護者の「いつも参加する」「ときどき参加する」が半数以上となっています。「お子さまに体験活動等の機会があれば参加させたいか」ということについては、80%以上の保護者が、「大いに思う」「まあまあ思う」と回答していました。

◇　保護者自身が地域で活動しながら地域の教育力を高めると同時に、子どもに対して社会の一員としてのモデルを示していきましょう。

一人で悩まず　気軽にアクセス

①HP「ふくおか子育てパーク」
～子育てに役立つ情報がいっぱい～

ふくおか子育てパーク　検索

https://www.kosodate.pref.fukuoka.jp/

②子育ての悩みは「メール相談」
～子育て経験者がお受けします～

HP「ふくおか子育てパーク」のコンテンツの相談フォームから受け付けています。

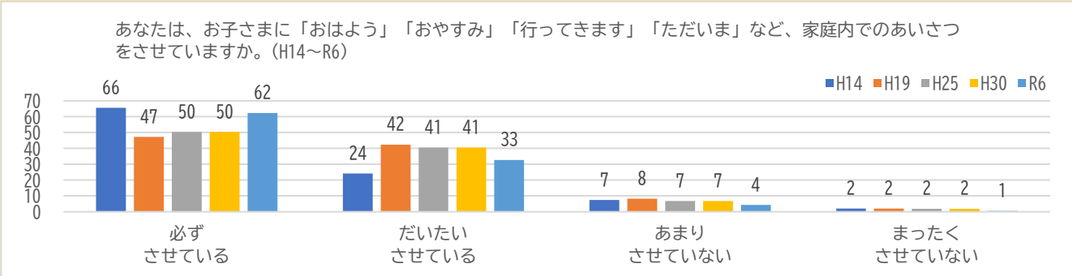
③家庭教育相談電話「親・おや電話」
～専門の相談員がお受けします～

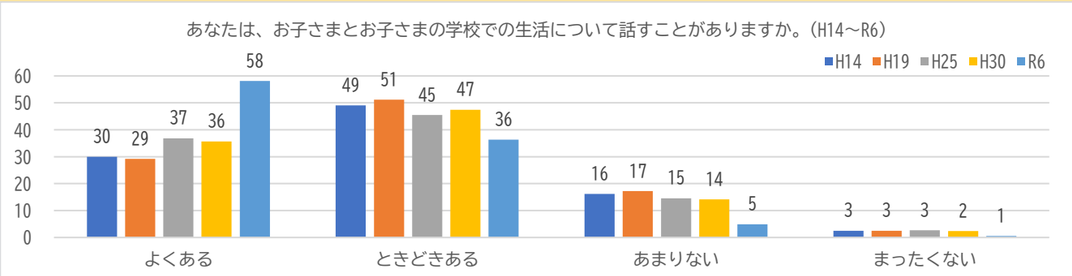
電話　０９２－９４７－３５１５
月曜日～土曜日　９：００～１７：００
※ただし、センター休所日、第４土曜日及び祝日を除く

編集／発行
福岡県立社会教育総合センター
糟屋郡篠栗町大字金出３３５０－２
電話　０９２－９４７－３５１２

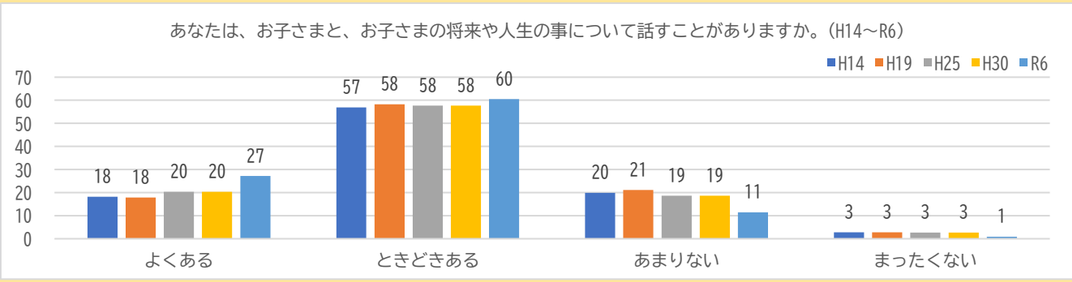
※この調査の報告書及びダイジェスト版は福岡県立社会教育総合センターのホームページ(https://www.fsg.pref.fukuoka.jp/center/)からダウンロードできます。併せて、集計表やグラフ集もホームページに掲載しています。ぜひご活用ください。

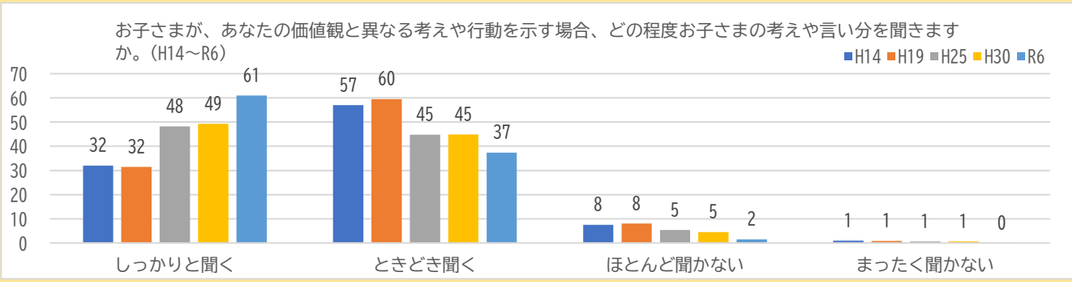
家庭でのコミュニケーションを大切にしましょう！





「あいさつ」について、「必ずさせている」の割合が増加しています。また、「学校生活の話」については、話すことが「よくある」「ときどきある」を合わせた割合は、前回は 83%、今回は 94%と増加しています。コミュニケーションの基本であるあいさつと、学校生活についての日常会話は、多くのご家庭でなされていることがわかります。

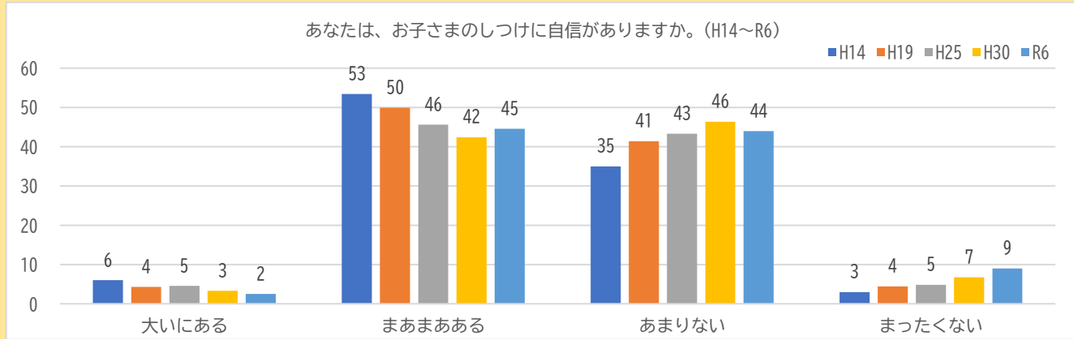


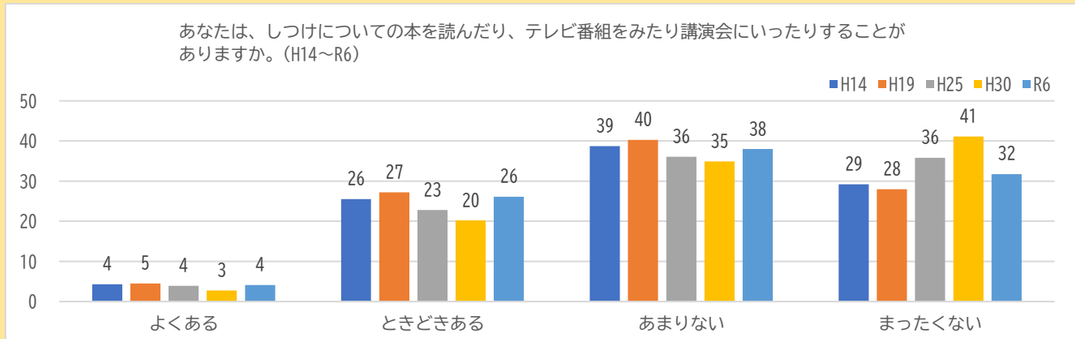


「将来・人生の話」について、話すことが「よくある」との回答が増加しています。また、「子どもの言い分を聞く」についても、「しっかりと聞く」の回答が増加してきています。

◇　中学生は「思春期」と呼ばれる多感な時期を過ごしています。これからも、あいさつや日常会話のやりとりをするとともに、子どもの言葉にしっかりと耳を傾けましょう。

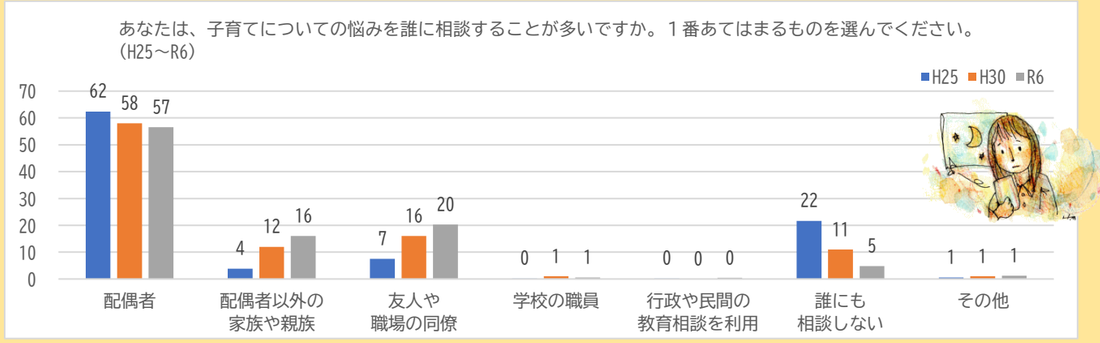
家庭教育について学び合う機会を持ちましょう！





「しつけの自信」について、「大いにある」「まあまあある」は減少傾向に、「あまりない」「まったくない」は増加傾向にあります。それに対して、「しつけの学習」については、「あまりない」「まったくない」を合わせた割合が、70%にのぼっています。

◇　地域の研修会や PTA などの様々な学習機会を活用し、保護者どうしで学び合ったり、支え合ったりしていきましょう。



「悩みの相談相手」については、最も多かったのは「配偶者」、次いで「友人や職場の同僚」、そして「配偶者以外の家族や親族」という結果になりました。「誰にも相談しない」は５％で、減少傾向にあります。

◇　乳幼児期・学童期よりも、家庭教育や子育てに関する相談先は多くありませんが、身の回りの方や相談機関等に相談し、悩みを一人で抱え込まないようにしましょう。